



駅のホームは 欄干のない橋

全日本視覚障害者協議会 **田中章治** さん

視 覚障害があり、盲導犬を連れて歩いていた男性が東京メトロ銀座線青山一丁目駅ホームから転落し、死亡する事故がありました。事故後、東京視覚障害者協会のメンバーと現場に行きましたが、これは危ないと思いました。ホームの幅が非常に狭く、点字ブロックはありますが、その上に柱があり、それを避けるために左か右に回らないといけません。

私も盲導犬を連れて歩いてみると、柱を避けた時の線路と盲導犬の間隔は、50センチ程しかありませんでした。また、反響音がすごくて、電車が入ってくるとアナウンスが聞こえず、どちらに電車が入ってきているのかもわかりませんでした。駅員は、事故の直前に現場から5メートル程先で「白線の内側にお下がってください」とアナウンスしたとのことですが、そうした一般的なものではなく、「そこの盲導犬の方、気をつけてください」と言っていたら立ち止まれたかもしれません。そんな危険な要素をいろいろと感じました。

東京メトロの説明によれば、青山一丁目駅にはホームドアを2018年度までに付ける計画とのことですが、事故の防止のために計画を前倒して、すべての地下鉄にホームドアを付けてほしいと要望をしました。それができるまでは、駅員を配置して、サポートするなどの対策が求められます。また、視覚障害者にとって駅のホームは欄干のない橋なのです。極力歩く距離を短くするために、駅の構造がどうなっているのか、などの情報提供も必要です。

ホームドアをなかなか設置しない理由は、ドアとホームの耐久工事の予算が必要とのことでした。また、他社の電車が

乗り入れており、そのたびにドアの位置が変わるので設置しにくいとのこと。しかし、ホームドアには国と自治体、事業者で3分の1ずつ負担する補助金もあります。技術的な面も含めて早急に設置のための検討をしてほしいと思います。国交省にも緊急の申し入れをしましたが、対策のための動きは遅くて甘いと指摘しなければなりません。

*

ホームドアは、私たちの運動によって設置されてきました。1973年に上野さんという中途視覚障害者が高田馬場駅ホームで転落して亡くなる事故があり、裁判になりました。視覚障害者はそれまで一人で歩かせるな、ガイドをつけろ、と言われていましたが、裁判の過程で視覚障害者も自由に歩く権利、歩行権が認められました。その事故をきっかけに点字ブロックが全国に広がり、この流れでもっと安全な方法を要求し、ホームドアができました。視覚障害者も安全に歩ける駅、まちづくりの運動を積み重ねて実ったものでした。こうした運動が今後も必要だと思っています。

たなか しょうじ/全日本視覚障害者協議会代表理事を務める。8月15日に起こった東京メトロ銀座線青山一丁目駅のホーム転落事故で、現場に3回足を運び、東京メトロ、国交省などに再発防止のための要請を行う。視覚障害者が安心した生活を送るための運動にとりくんでいる。